

2020年の大雨

令和2年7月豪雨の影響で西日本から東北地方にかけて記録的な大雨

1. 概要

2020年（令和2年）の梅雨入りは、東北北部でかなり遅く、沖縄地方、奄美地方と九州北部地方から関東甲信地方で遅かった。梅雨明けは、沖縄地方でかなり早く、奄美地方から東海地方にかけてはかなり遅く、奄美地方の梅雨明けは、1951年の統計開始以降最も遅かった。東北北部では梅雨明けの時期を特定できなかった。梅雨の時期の降水量（6～7月、沖縄と奄美は5～6月）は、奄美地方で多かった他は、各地方でかなり多かった。九州北部地方、東海地方、関東甲信地方、東南北部で1951年の統計開始以降最も多かった。

7月3日から31日にかけて、日本付近に停滞していた前線の影響で、温かく湿った空気が継続して流れ込み、西日本から東北地方にかけて広い範囲で記録的な大雨となり、河川の氾濫、土砂災害、浸水害が相次いだ。気象庁は、顕著な災害をもたらした7月3日から31日までの一連の大雨について、災害の経験や教訓を後世に伝承することなどを目的として「令和2年7月豪雨」と名称を定めた。

9月4日から7日にかけて、台風第10号が沖縄・奄美や西日本に接近した影響で、沖縄・奄美や西日本を中心に暴風となり、九州を中心に広い範囲で停電が発生した。また、西日本を中心に大雨となり、各地で土砂災害、浸水害、河川の氾濫が発生した。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめた。被害状況については、主に気象庁がとりまとめた資料によるが、一部、内閣府等発表の資料も使用した。また、人的被害の数には風等を原因とするものも含まれる。なお、風速や降水量などの観測値を記載する際の観測地点名は、都道府県名、観測所名とした。

(1) 5月9日～7月31日：全国(大雨)＜梅雨前線、令和2年7月豪雨＞

5月9日から7月31日にかけて、活動の活発な梅雨前線や発達した低気圧の影響により、沖縄地方から東

北地方にかけての各地で大雨となった。特に、7月3日から7月31日にかけて、日本付近に停滞した前線の影響で、暖かく湿った空気が継続して流れ込み、各地で大雨となり、人的被害や物的被害が発生した。

令和2年7月豪雨においては、球磨川や筑後川、飛騨川、江の川、最上川といった大河川での氾濫が相次いだほか、土砂災害、低地の浸水等により、死者・行方不明者が86名、住家被害は約17,000棟に達するなど、人的被害や物的被害が多く発生した。また、西日本から東日本の広い範囲で大気の状態が非常に不安定となり、7月25日に埼玉県三郷市でJEF1の竜巻が発生するなど、この期間に12県で29件の突風害が発生した。（被害の状況は令和3年1月7日の内閣府とりまとめによる）

※以下、期間内に特に顕著な雨となった期間の気象概況を記載

(1-1) 7月3日から7月4日

7月3日から4日は、梅雨前線が西日本から東日本に停滞し、前線上の低気圧が東に進んだ。この影響でほぼ全国的に雨となり、九州北部地方や四国地方では多いところで日降水量300mmを超えたほか、西日本や東日本の多いところで日降水量200mmを超える大雨となった。

(1-2) 7月6日から8日

7月6日から8日は、梅雨前線が西日本から東北地方に停滞した。この影響でほぼ全国的に雨となり、九州北部地方では多いところで日降水量400mmを超えたほか、四国地方の多いところで日降水量300mmを超え、西日本や東日本の多いところで日降水量200mmを超える大雨となった。

(1-3) 7月25日から28日

7月25日から28日は、梅雨前線が西日本から北日本に停滞し、日本海の低気圧が北日本を通過した。この影響でほぼ全国的に雨となり、25日から26日は東海地方では多いところで日降水量300mmを超えたほか、九州北部地方の多いところで日降水量200mmを超え、西日本や東日本の広い範囲で日降水量100mmを超える大雨となった。また、27日から28日は東北地方の多

いところで日降水量200mmを超え、西日本や東日本の広い範囲で日降水量100mmを超える大雨となった。

(2) 8月31～9月7日：沖縄・奄美、西日本、東日本（大雨、暴風、高波）＜台風第9号、台風第10号＞

8月28日にフィリピンの東で発生した台風第9号は、8月31日夜遅くから9月1日未明にかけて大型で非常に強い勢力となり沖縄地方に接近した。その後、2日夜遅くから3日未明にかけて大型で強い勢力で九州北部地方に接近し、その後、朝鮮半島に進んだ。この台風によって、人的被害が生じたほか、南西諸島及び西日本で住家被害が生じた。（被害の状況は令和3年2月26日の消防庁とりまとめによる）

8月31日に小笠原近海で発生した台風第10号は、日本の南を北西に進み、9月4日から5日にかけて猛烈な勢力で沖縄地方に接近し、5日から7日にかけて非常に強い勢力を保って奄美地方や西日本に接近した後、朝鮮半島に上陸し、8日3時に温帯低気圧に変わった。この台風によって死者3名、行方不明者3名の人的被害が生じたほか、南西諸島及び西日本の広い範囲で1000棟を超える住家被害が生じた。また、暴風による飛来物や倒木により高圧線断線等が発生し、停電戸数は最大時で500,000戸を超えた。（被害の状況は令和2年9月14日の内閣府とりまとめ等による）

(2-1) 8月31日から9月3日

台風第9号の接近に伴い、沖縄県久米島町で40.7m/sを観測するなど沖縄地方や九州北部地方の複数の観測点で最大風速30m/s以上の猛烈な風を観測した。

雨については、台風により暖かく湿った空気が流れ込み、発達した雨雲がかかったため、九州南部、四国地方、東海地方の複数の

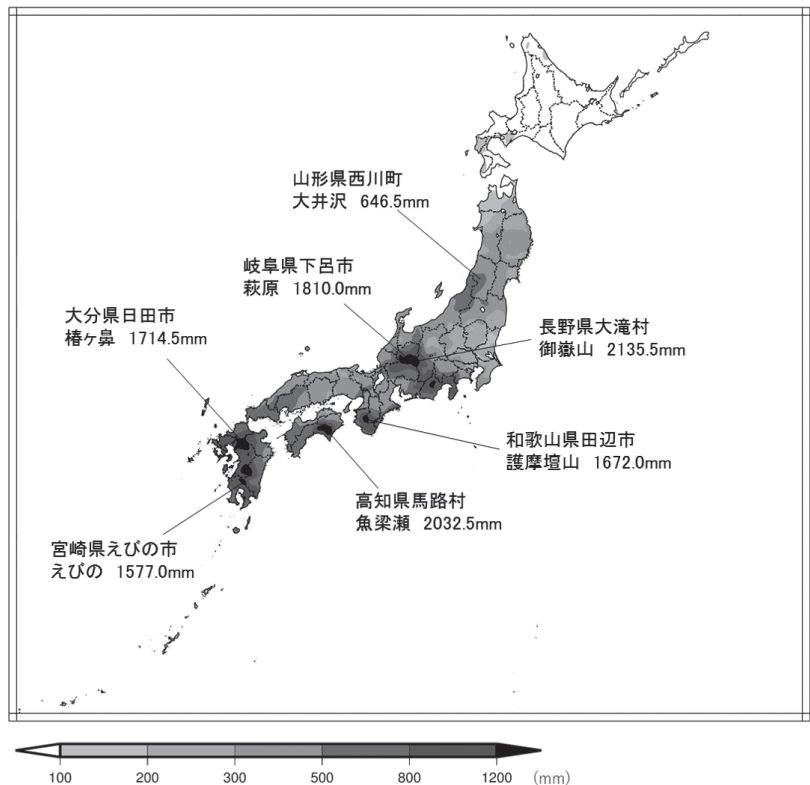
観測点で1時間50mm以上の非常に激しい雨を観測した。

高潮については、台風の接近が大潮の時期と重なったことから、島根県浜田で122cm、兵庫県津居山で92cmを観測するなど、警報基準を超えるような潮位を観測した。

(2-2) 9月4日から7日

台風第10号の接近に伴い、沖縄・奄美から東日本にかけての広い範囲で暴風、大雨、高波、高潮となった。風については、長崎県野母崎で7日に最大風速44.2m/s、最大瞬間風速59.4m/sとなったほか、南西諸島や九州を中心に猛烈な風または非常に強い風を観測し、観測史上1位の値を超えたところがあるなど、記録的な暴風となった。

雨については、宮崎県神門で4日から7日までの総降水量が599.0mmとなり、宮崎県の4地点で24時間降水量が400mmを超えたほか、台風の中心から離れた東日本の太平洋側など広い範囲で24時間降水量が200mmを超える大雨となった。



第1図 総降水量分布図（期間：7月3日～7月31日）。

波については、宮崎県日向沖で11.4m、鹿児島県屋久島で10.4mの高波が観測されるなど、南西諸島や九州、四国地方で猛烈なしけとなった。

高潮については、鹿児島県奄美で潮位が216cmとなり、警報基準（190cm）を超える値が観測された。

(3) 10月7日～11日：東日本（大雨、暴風、高波） ＜台風第14号＞

10月7日から10月11日にかけて、伊豆諸島付近には前線が停滞した。また、10月5日9時に日本の南で発生した台風第14号は、発達しながら北西に進み、7日15時に南大東島の東で強い台風となった。台風は強い

勢力を維持しながら8日には進路を北に変え、9日夜に四国の南に達し、台風は9日21時には強い勢力ではなくなった。その後、進路を東よりに変え、比較的ゆっくりした速度で11日朝にかけて東海道沖から伊豆諸島付近を東に進んだ。この台風や前線等の影響により、東日本の太平洋側を中心に大雨や暴風、高波となり、特に東京都伊豆諸島においては記録的な大雨となった。

この大雨等の影響で、土砂災害が発生するとともに、人的被害や住家被害が発生した。（被害の状況は令和2年11月13日の消防庁とりまとめによる）

気候情報

2020年の台風

発生数は23個、日本への接近数は7個で、上陸した台風はなく、いずれも平年を下回った

1. 概要

台風の発生数は平年より少ない23個（平年値^{*25.6}個）であった。7月までの台風の発生数は2個と平年（月平年値の7月までの合計数は7.7個）よりも少なく、第3号の発生は8月1日9時で、第3号としては台風の統計を開始した1951年以降で2番目に遅い発生であった。一方で、8月以降の発生数は21個で、平年より多く（平年値17.8個）になった。

日本への台風の接近数は平年より少ない7個（平年値11.4個）であった。

日本への台風の上陸数は0個（平年値2.7個）であった。上陸が無いのは2008年以来で、1951年以降では5回目であった。

第1表に台風の発生数、上陸数、接近数を、第2表に発生した台風の一覧を示す。

2. 日本に影響を及ぼした主な台風

日本に影響した台風（本稿では台風の中心が日本から概ね500kmに入った場合とする）のうち、主な台風について以下に概要を示す。また、時刻については、全て日本時で表記した。第3表に日本に影響した台風の一覧、第1図にその経路図を示す。

(1) 台風第4号（2004 HAGUPIT ハグビート）

7月31日3時にフィリピンの東で発生した熱帯低気圧は、はじめ北北西に進み約1日後に北西に進路を変えた。熱帯低気圧は、その後も北西の進路を維持して、8月1日15時に沖縄の南で台風第4号となった。台風は東シナ海に入り、3日21時に台湾の北で勢力が最大となった。台風は、4日9時前に華中に上陸し、その後進路を北に変えた後、次第に進路を北東に変えて黄海に入り、5日21時に温帯低気圧となった。温帯低気圧は朝鮮半島と北海道を横断した後、カムチャツカ半島付近で進路を東に変え、8月12日15時前に東経180度を越えた。

* 本稿は2020年の台風について述べるため、比較対象とする平年値は1981年から2010年にかけてのものを使用する。

第1表 令和2年(2020年)の台風発生数、日本への上陸数*¹、日本への接近数*²と平年値及び平成31年/令和元年(2019年)との比較。

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
	平年値	発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2
上陸数						0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7
接近数					0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
平成31年/令和元年 (2019年)	発生数	1	1				1	4	5	6	4	6	1	29
	上陸数							1	2	1	1			5
	接近数						1	2	3	5	4	1		15
令和2年 (2020年)	発生数					1	1		8	3	6	3	1	23
	上陸数													0
	接近数								4	3	1			7

(注)・平年値は、昭和56年(1981年)～平成22年(2010年)の30年平均。

・日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸*¹ 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近*² 台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「接近」という。

(2) 台風第5号(2005 JANGMI チャンミー)

8月7日3時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は北に進んだ。熱帯低気圧は、9日3時に沖縄の南で台風第5号となり、21時に東シナ海上で勢力が最大になった。台風は、次第に進路を北東に変え、11日15時に日本海北部で温帯低気圧となり、15日9時に千島列島の東海上で消滅した。

(3) 台風第8号(2008 BAVI バービー)

8月21日3時にフィリピンの北海上で発生した熱帯低気圧は、北に進んだ。熱帯低気圧は、22日9時に沖縄の南海上で台風第8号となり、次第に進路を北東に変えた。その後沖縄の西で次第に進路を北に変え、26日9時に東シナ海北部で勢力が最大になった。台風は、27日に朝鮮半島に上陸し、15時に温帯低気圧となった後、北北東にゆっくり進み、30日9時に中国東北区で消滅した。

(4) 台風第9号(2009 MAYSACK メイサーク)

8月27日9時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は、はじめ北に進み、次第に西に進路を変えた。熱帯低気圧は、28日15時に同海域で台風第9号となり、時計回りに半円を描いた。台風は北に進んだ後、31日9時頃には次第に進路を北北西に変え、9月1日9時には、東シナ海で勢力が最大になり、その後次第に北北東に加速した。台風は、3日に朝鮮半島を縦断し、日本海に入った後、朝鮮半島北部に上陸し、3日15時に温帯低気圧となり、7日15時にアムール川下流

域で消滅した。

(5) 台風第10号(2010 HAISHEN ハイシェン)

8月30日21時に硫黄島の東海上で発生した熱帯低気圧は、はじめ南南東に進んだ。熱帯低気圧は、時計回りに方向転換し、31日21時に同海域で台風第10号となって、北西に進んだ。台風は進路を維持したまま、9月4日21時に南大東島の南東海上で勢力が最大になった。台風はその後、北北西に進路を変えて加速し、6日午後には東シナ海に入った。台風は、九州の西海上を北上した後、7日午前中に朝鮮半島に上陸し、日本海に入った。8日3時には朝鮮半島北部で温帯低気圧となり、10日21時に中国東北区で消滅した。

(6) 台風第12号(2012 Dolphin ドルフィン)

9月19日21時に沖ノ島島の北海上で発生した熱帯低気圧は北に進み、21日9時に同海域で台風第12号となった。台風は22日15時に日本の南で勢力が最大となり、次第に進路を北東に変え、24日15時に八丈島の東南東で温帯低気圧となった。その後、温帯低気圧は日本の東を北東に進み、千島列島の北部で進路を東に変え、30日9時に千島の東海上で消滅した。

(7) 台風第14号(2014 CHAN-HOM チャンホン)

10月4日9時に日本の南で発生した熱帯低気圧は、はじめ北に進み、次第に西北西に進路を変え、5日9時に同海域で台風第14号となった。台風は、北に進路を変えた後、8日21時に九州の南東海上で勢力が最大

第2表 令和2年(2020年)に発生した台風の一覧表。

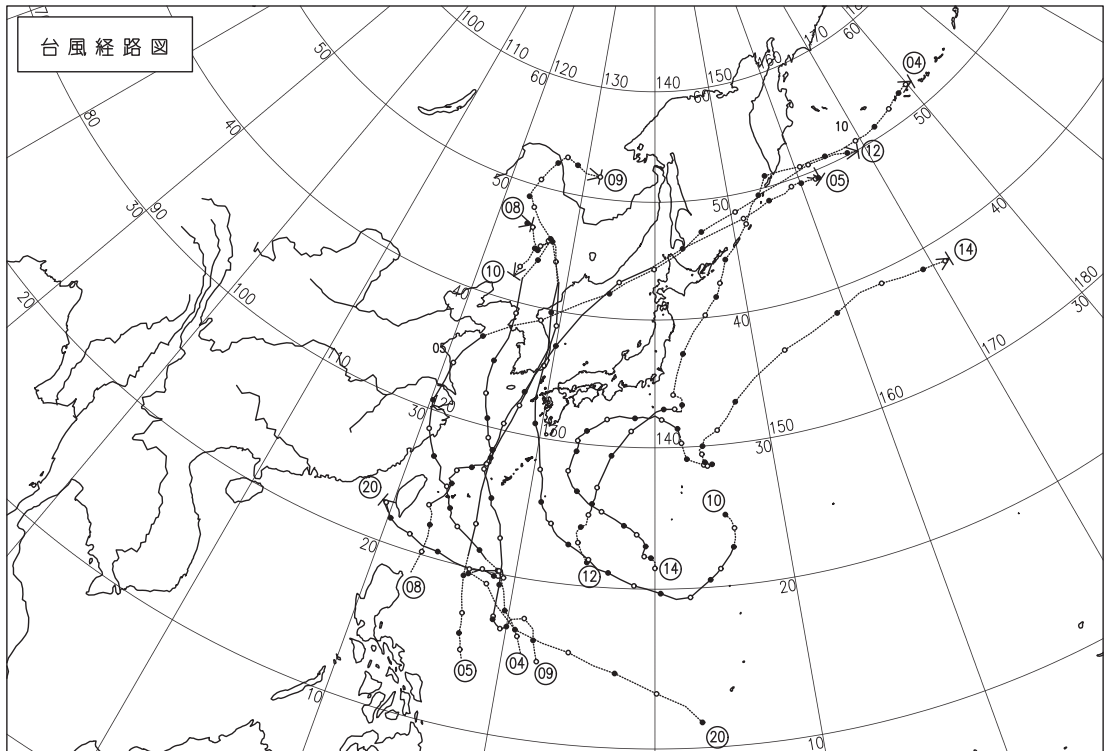
台風番号	台風名		熱帯低気圧の発生			台風の発生			海面気圧			台風期間中の最低(大)値			熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置			消滅前の最後は確認された日時と位置、又は域外に出た最初の日時													
	月	日	時	北緯	東経	月	日	時	北緯	東経	月	日	時	hPa	月	日	時	km	月	日	時	北緯	東経	月	日	時	北緯	東経			
1	VONGFONG	5	8	15	6.8	134.0	5	12	21	11.3	129.5	5	14	15	960	5	16	15	NE: 165	SW: 110	5	16	21	18.9	119.5	5	18	15	24.4	127.0	
2	NURI	6	10	09	11.3	126.4	6	12	21	16.8	117.6	6	13	15	996	6	13	21	E: 280	W: 220	6	14	09	21.6	112.1	6	14	15	22.6	111.0	
3	SINLAKU	7	31	09	16.6	114.0	8	1	09	17.8	110.7	8	2	15	985	8	2	21	SE: 1300	NW: 370	8	3	03	19.2	103.4	8	3	09	20.2	102.2	
4	HAGUPIT	7	31	03	15.2	131.2	8	1	15	20.8	127.7	8	4	03	975	8	4	03	SE: 390	NW: 165	8	5	21	36.6	122.7	L	8	12	15	域外	
5	JANGMI	8	7	03	14.2	127.5	8	9	03	20.8	126.4	8	10	06	994	8	9	15	SE: 500	NW: 220	8	11	15	44.3	139.5	L	8	15	03	49.1	162.7
6	MEKKHALA	8	9	09	15.1	118.2	8	10	09	19.2	118.6	8	11	03	992	8	11	09	SE: 220	NW: 165	8	11	15	25.6	117.3	TD	8	11	15	25.6	117.3
7	HIGOS	8	16	15	17.6	123.4	8	18	09	20.3	116.9	8	19	09	992	8	18	21	NE: 220	SW: 165	8	20	03	24.0	109.4	TD	8	20	15	26.0	108.7
8	BAVI	8	21	03	18.7	122.8	8	22	09	23.4	122.6	8	26	15	950	8	27	03	E: 390	W: 280	8	27	15	42.0	125.0	L	8	30	03	46.6	124.4
9	MAYSAK	8	27	09	14.8	132.3	8	28	15	17.2	130.2	9	1	21	935	9	3	09	560	9	3	15	42.3	129.1	L	9	7	09	51.9	132.1	
10	HAISHEN	8	30	21	24.9	145.5	8	31	21	22.6	145.9	9	5	06	910	9	6	00	NW: 850	SE: 650	9	8	03	42.2	129.0	L	9	10	15	42.0	124.0
11	NOUL	9	15	09	12.8	121.8	9	16	03	13.0	118.5	9	18	09	992	9	18	21	330	9	19	03	16.2	102.1	TD	9	19	03	16.2	102.1	
12	DOLPHIN	9	19	21	21.6	135.0	9	21	09	24.9	134.8	9	23	09	975	9	24	12	W: 500	E: 390	9	24	15	32.7	142.4	L	9	30	03	49.9	168.9
13	KUJIRA	9	25	21	16.6	158.7	9	27	03	20.0	159.3	9	29	21	980	9	29	21	SE: 410	NW: 330	9	30	15	41.0	163.0	L	10	2	03	域外	
14	CHAN-HOM	10	4	09	21.4	140.0	10	5	09	22.2	139.2	10	9	06	965	10	7	15	440	10	12	03	30.8	142.2	TD	10	19	15	38.2	171.8	
15	LINFA	10	7	03	13.8	125.9	10	11	03	14.6	110.2	10	11	09	994	10	11	03	N: 390	S: 220	10	11	21	14.9	107.9	TD	10	12	15	14.2	106.7
16	NANGKA	10	11	09	16.7	119.9	10	12	15	17.6	116.0	10	14	03	990	10	13	15	N: 560	S: 280	10	14	21	19.9	105.9	TD	10	14	21	19.9	105.9
17	SAUDEL	10	19	03	13.1	130.3	10	20	09	15.5	124.5	10	23	15	975	10	23	09	NW: 390	SE: 330	10	25	21	17.5	107.6	TD	10	25	21	17.5	107.6
18	MOLAVE	10	22	09	9.4	137.5	10	24	15	13.1	129.7	10	27	21	940	10	28	21	E: 500	W: 390	10	29	03	15.8	106.4	TD	10	29	09	15.0	105.0
19	GONI	10	26	21	14.1	141.7	10	29	03	16.6	137.8	11	1	03	905	11	1	21	N: 390	S: 220	11	5	21	13.8	110.9	TD	11	6	15	14.7	107.2
20	ATSANI	10	30	21	11.5	142.9	11	3	03	19.8	127.1	11	5	15	992	11	5	03	NW: 330	SE: 220	11	7	15	22.7	119.2	TD	11	7	15	22.7	119.2
21	ETAU	11	6	21	10.0	130.7	11	9	03	12.9	115.4	11	9	15	992	11	10	15	N: 330	S: 165	11	10	21	12.6	107.4	TD	11	11	03	12.4	106.4
22	VAMCO	11	8	09	8.2	135.2	11	9	21	11.9	130.4	11	14	09	955	11	12	09	NE: 500	SW: 280	11	15	21	18.1	105.9	TD	11	16	15	20.1	103.0
23	KROVANH	12	18	09	7.2	127.2	12	20	09	9.6	115.7	12	20	15	1000	12	22	09	NW: 440	SE: 220	12	22	15	7.7	110.6	TD	12	25	09	域外	

表中の日はすべて日本時(JST)。「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算、強風半径は海里で解析し、10km単位に換算しているため、必ずしもこれに当てはまらない事がある。)強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

第3表 令和2年(2020年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧, 温帯低気圧の期間は除く)。

台風番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500km以内に入った場合)				日本への接近 (台風の中心が日本から概ね300km以内に入った場合)				上陸, 通過
	月日		地域	月日		地域			
	始	終		始	終				
4	8/1	8/4	沖縄・奄美	8/2	8/3	沖縄地方	上陸, 通過なし。		
5	8/9	8/11	沖縄・奄美, 西日本, 東日本, 北日本	8/9	8/10	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 中国地方	上陸, 通過なし。		
8	8/22	8/27	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方	8/22	8/25	沖縄・奄美	上陸, 通過なし。		
9	8/31	9/3	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 四国地方, 中国地方	8/31	9/3	沖縄地方, 九州南部, 九州北部地方	上陸, 通過なし。		
10	9/4	9/7	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 四国地方, 中国地方	9/6	9/7	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 中国地方	上陸, 通過なし。		
12	9/21	9/24	沖縄地方, 四国地方, 近畿地方, 東日本, 北日本	9/23	9/24	東海地方, 伊豆諸島, 小笠原諸島, 関東甲信地方	上陸, 通過なし。		
14	10/7	10/12	沖縄・奄美, 西日本, 東日本	10/7	10/11	沖縄地方, 西日本, 東日本	上陸, 通過なし。		
20	11/5	11/7	沖縄地方				上陸, 通過なし。		

台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。
 台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。



第1図 台風経路図。

となり、本州の南海上を東に進んだ後、南東に進み、12日3時に八丈島の南東で熱帯低気圧となった。熱帯低気圧は、南に進んだ後、13日頃にはほとんど停滞し、14日に北に進み始めた。熱帯低気圧は北東に進路を変えた後、加速して17日9時に日本の東で温帯低気圧となり、さらに東に進み、19日21時にアリューシャンの南で消滅した。

(8) 台風第20号 (2020 ATSANI アッサニー)

10月30日21時にグアム島の南西海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、11月2日21時にフィリピンの東で急に東北東へ進路を変え、3日3時に台風第20号となった。台風は反時計回りに回り始め、4日21時に勢力が最大となった。その後、5日21時に西北西に進み、7日15時に台湾の南西で熱帯低気圧となり、7日21時に同海域で消滅した。